

中小企業のための 法務講座



あなたのビジネスには 弁護士が必要ですか？

す。一番、弁護士が役立つのは、トラブルが発生するよりかなり前の段階で、法的に大きな影響が及ぶ可能性のある意思決定や行動を取ろうとする時にこそ役立つ。つまり、まだ選択肢が豊富にあり、いくらかも対策が取れる段階で、弁護士の意見やアドバイスをもらうことで、将来のトラブルを未然に防ぐだけではなく、最大のリターンが得られるはず。弁護士との関係が長ければ長いほど、自分のビジネスをきちんと理解してくれて適切なアドバイスがもらえます。長い付き合いがある弁護士と比較し、問題があった場合のみ弁護士を使うというやり方は、自分のビジネスに対して理解が足りないためにその弁護士はあまり適切なアドバイスができないかもしれません。

弁護士の選び方

弁護士を使うとする時に、まずは、ビジネスをするのがどこか考えましよう。日本人はとかく弁護士に相談すれば何でも解決すると思いがちですが、国ごとに法律は大きく異なりますので、弁護士が全世界の法律に通じているわけありません。一概には言えませんが、日本法人であったとしても、香港でのビジネスを考えている場合は、香港法の弁護士が適切でしょう。つまりまず何法の弁護士か必ず確認する必要があります。その上で、その弁護士の能力を全体的にチェックした方が良いでしょう。例えば、経営者の場合、商法、コーポラル、契約や労務などの分野について詳しい弁護士があなたのビジネスに役立つに違いありません。それらの知識

弁護士が役に立つ時

経営者にとって下記の様な場合に弁護士が役立つでしょう。ただし、すべての例が含まれるわけではないことにご注意ください。

- 会社設立/会社定款の作成/重要な会社内部書類の作成/不動産の購入、売却、賃貸/M&AやIPO/契約時/訴訟/担保/株券の譲渡/信託の設立/人事労務/知的財産権の保護

予防と保護

香港ではトラブルや紛争を未然に防ぐために弁護士を利用するという考え方が一般的で、そのために契約書があります。相手側から契約書は相手側に有利な

ものなので、署名する前に弁護士のレビューをもらうべきです。立場によっては、自社で依頼した弁護士に契約書を作成してもらった方が主導権を握ることが出来ます。会社設立時や事業を起す際、弁護士が会社の定款を徹底的に起案したり、役所へ諸登録手続きを代行したりすることが出来ます。会社設立時に株主契約、取締役契約、ジョイントベンチャー契約など様々な書類が必要であり、弁護士はあなたのニーズや定款に従い、それらの契約を起案することが出来ます。諸書類が水も漏らさぬ様にすることがあなたのビジネス成功の第一歩です。

スで何かあった時、弁護士の良いアドバイスにより訴訟まで行かずに問題を解決する事が非常に重要です。どうしても訴訟をせざるを得ない場合も、長期的な付き合いがある弁護士は、直ちにあなたに適切なアドバイスを提供できるはず。このシリーズは月1回掲載します。

筆者紹介

ANDY CHENG
 弁護士 アンディチェン法律事務所代表
 米系法律事務所から独立し開業。企業向けの香港後、
 法律相談・契約書作成を得意としている。留學後、
 港大學法律學科卒業、慶應義塾大學へ留學後、
 在香港日本国総領事館勤務の経験もあり
 トロント相談員も務めている。日本語堪能
www.andysolicitor.com
info@andysolicitor.com



訴訟
 弁護士は、書類作成の優れた起案力だけで会社を保護するだけでなく、ビジネ

「株主比率が50対50の親友同士で始めたビジネスが、もはやうまくいかず、後は裁判で紛争を解決する段階なのだけれど、何かできることは無いか。結論から言いますと、この段階になってしまうと解決策はなく、後は裁判所で争うだけです。」

もしこのクライアントが、会社を設立する段階で弁護士に相談していたらどうだったでしょう。適切な定款を作成したり、株主間契約を作成することで自分

の権利を守れたはず。とりわけ、お金を出さずに営業権のみを提供する場合は、特に上記の契約書が重要。あるいは自分が10%の少額出資しかしていない場合、弁護士に相談し条文を加えることで、少数株主を保護することも可能です。

法的な解決を図ろうとする時は当然弁護士を必要とするのかもしれませんが、すでにどうしようもない状況に至っているため、取る選択肢は限られていま